

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立智頭農林高等学校

重点項目	地域連携重点校	提出日	令和3年5月11日
------	---------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>「一人ひとりの生徒を大切」を教育の根幹におき、勤労と責任を重んじ、心身ともに健康で地域産業及び社会の発展に貢献できる人材を育てる。</p> <p>(1) 専門教育の充実 各科の授業実践及び資格取得の取組をとおして、学びの質の向上を図る</p> <p>(2) 学力向上 基礎学力の定着と授業力の向上</p> <p>(3) キャリア教育 進路指導の充実と職業観・勤労観の育成</p> <p>(4) こころの教育 規範意識の醸成、基本的な生活習慣の確立、家庭との連携 自己理解・他者理解に基づいた人間関係づくり、自己肯定感の育成、健やかな体づくり 教育相談、特別支援教育及び人権教育のより一層の充実</p> <p>(5) 地域連携の充実 地域の教育資源を活かし本校の教育資源を地域に活かす、顔の見える地域連携、先輩から後輩へ、広報の拡大と充実</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>○地域連携をとおして、地域の活性化に寄与するとともに、生徒の全人的な発達を促し、地域に期待される学校をめざす。</p> <p>○地域や地元産業と「顔の見える連携」を推進し、生徒が自主的に活動できる機会をもつことで、関わった生徒の満足度や達成感、自己有用感が高まるなど教育的効果を期待する。</p> <p>○本校の教育資源と地域の教育資源を活用することで、学校と地域の活性化を図るとともに、学校の特色化・魅力化を推進する。生徒や教職員の専門的知識や技術力を、可能な限り地域に発信できるよう連携を密にする。</p> <p><数値目標></p> <p>○地域連携活動後に地域からの評価アンケートを実施し、90%以上の評価をめざす。 (令和元年度実績 100%)</p>	<p>○地元商店街における生産物の販売(ちのりんショップ)は地域に定着しつつあり、地元保育園との菜園交流も継続して実施している。地域の方との交流をとおしてコミュニケーション能力の育成や自己有用感の向上につながっている。</p> <p>○新型コロナウイルス感染防止のため、計画の見直しや中止となる事業がある中、棚田の補修、格子の製作、藍染めのれんの製作などは継続して実施することができた。関わった生徒は満足感ややりがいを感じている。</p> <p>○地域連携をとおして、地域の方の本校への理解を深める機会となっている。</p> <p><数値結果></p> <p>○令和2年度実績 97%</p>
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域基礎」の実践 <p>【独自事業】</p> <p>[ふるさと創造科]</p> <p>(1) 地元商店街における生産物の販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業のねらい 	

- ①学校や地域で生産される農産物・加工品を町内の商店街で販売し生徒のコミュニケーション能力や経営感覚を育成する。
- ②地域特産品の開発、販売を通して起業家教育を推進する。
- ③地域の商店街で活動することで地域の実情を体感し、地域の活性化を図る。
- ④取組の成果や商店街の課題等について、高校生の視点で智頭町百人委員会で報告を行う。

・事業内容

- ①店舗（ちのりんショップ）は智頭駅近くの空き店舗を利用する。販売日程は6月～1月の7か月間、月当たり土曜日1回（土曜授業等）実施した。新型コロナウイルス感染防止のため、5月どうだん祭り、9月研修旅行の出張ちのりんショップは開催できなかった。
- ②販売品目は、智頭農林で生産した野菜、パン、スイーツ、切り花・花苗に加え、智頭町の農家および企業と連携した生産物を仕入れたものとする。店舗にPOSシステムを導入することにより、顧客に関する情報を収集し、商品の売れ筋動向を調べ、計画的な生産と仕入れに関する学習に繋がった。
- ③生徒が自ら地元商店街で販売することで、農業に関する学習だけでなく地域の過疎化や高齢化問題を学習する機会となった。
- ④商品陳列やPOPなどを工夫することによって、顧客の満足と集約について学習を深めることができた。
- ⑤販売実習、ちのりんカフェの運営をとおしてコミュニケーション能力が向上を図った。

(2) 智頭農林ブランド食品加工品の開発

・事業のねらい

- ①学校設定科目「地域特産品研究」を実施するにあたり、商品開発やその手法について研究し実践する。
- ②地域の特産物を生かし智頭農林高校独自の製品開発を目指す。
- ③地域企業の人材を生かし、専門技術に熟練した講師を招き、食品加工技術を習得する。
- ④本校や智頭町で栽培している「ルバーブ・ハックルベリー」の特産品化に向けて、栽培と加工技術の研究を行う。また、従来から栽培している「トマト」「サツマイモ」などの加工品開発研究を行い新たな特産品を開発する。

・事業内容

- ①校地内の新たな圃場を活用することが可能となり、栽培から加工までの一連の工程を学習することができるようになった。
- ②地元商店街の空き店舗を利用した「ちのりんショップ」の運営及び販売する加工品と農産物の生産を行った。

(3) 地域における園芸福祉交流活動の実践

・事業のねらい

- ①園芸福祉の知識・技術の習得
- ②福祉マインドやコミュニケーション能力の育成および交流対象者との信頼関係の醸成
- ③農産物（花・野菜・ハーブなど）を活用した福祉・保育の実践的な活動
- ④花壇園の管理技術の習得

・事業内容

①保育園での菜園活動およびプランター装飾交流

地元ちづ保育園の菜園活動において、園芸福祉活動として保育園児と一緒に野菜づくりを行った。生徒は、この活動を通してコミュニケーション能力の育成を図ると同時に野菜栽培の管理技術の習得に繋がった。

②高齢者施設の花壇装飾

新型コロナウイルス感染防止のため、直接の交流活動はできなかったが、入所者の方に窓越しに花を楽しんでもらえるよう工夫し花壇装飾を行った。

(4) 地元休耕田の有効活用策の研究

・事業のねらい

- ①地域の未利用資源を有効活用する。
- ②生徒が地域の課題を理解し、主体的に解決策を考え、行動できるようになる。
- ③地域の農業従事者との交流によりコミュニケーション能力を向上させる。
- ④栽培技術の習得。

・事業内容

実施対象生徒 ふるさと創造科地域活動コース2, 3年生「園芸部門」

実施日 5月～12月

実施概要 ①大豆の省力多収栽培法（狭畦密植栽培）の研究

②畦畔防草シバの防草効果研究

③ダイズの利用法研究

ダイズ利用に関して、地元の豆腐店や地元農家と連携することで地産地消・地域活性化・コミュニケーション能力の向上に繋がった。

[森林科学科]

(1) 棚田保全事業

・事業のねらい

専門教科で学んだ知識や技術を生かしながら、棚田を含む里山の景観保全に取り組む。また、石積み畦畔の補修活動をとおして、伝統的な石積みの技術を習得するとともに耕作放棄地の有効活用を検討し、中山間地の現状を理解させる。

・事業内容

授業「課題研究」及び「総合実習」の内容のひとつとして、森林科学科森林応用コース2年生と3年生の生徒が、地域の景観保全のために、耕作放棄地となった棚田の除草活動を5月から11月の間行った。また、大雪や大雨によって崩れた石積み畦畔の修復活動を社会人講師の指導のもとに10月30日に行い、石積みの伝統技術を学ぶとともに地域の景観を保全する活動を行った。

(2) 国際交流学习

・事業のねらい

森林・林業を学ぶ生徒が、グローバルな視点で環境問題や森林の現状について考え、その課題を積極的に解決しようとする意欲と行動力を養うことを目的とする。

・事業内容

新型コロナウイルス感染防止のため、「森林・林業専攻高校生国際交流事業」が中止となった。前年本事業で交流のあったインドネシアのスカブミ高校との間でリモート授業を、11月11日に2年森林科学科森林応用コース生が実施した。

[生活環境科]

(1) 地元産業藍染めを学ぶ

・事業のねらい

- ①藍染めを活用したものづくり学習を通して、生徒の生活に関する知識と技術の習得につなげる。
- ②地元産業である藍染め技術を本校生徒に学習させ、地域との連携に寄与する。
- ③授業に取り入れる過程において藍染めに関する教職員の技術力の向上を図る。

・事業内容

①染料となる藍を校内の圃場で種から育て、生育した葉から藍液を作成した。

②生徒自ら作った染料を用いて藍染めに取り組む。なお、染色だけでなく、染めた布や糸を使い、作品制作等にも取り組んだ。

③教職員の技術力向上のため、地元の企業組合の協力を得て、染色や作品制作に関わる技術研修を行った。

(2) 智頭町・智頭病院等の庭園管理

・事業のねらい

- ①日頃の実習で身に付けた技術を生かして、生徒自身が公的な場所で管理作業等をする機会を設けることで、学びへの意識を高める。
- ②本校の教育活動の一端を地域の方に知ってもらう機会とし、生徒自らの作業実践により自己有用感の醸成をめざす。
- ③日頃利用している駅周辺や公的施設等を美しくすることで、美意識の涵養につなげる。
- ④智頭病院や智頭駅構内に室内装飾することで、学習成果の発表や学習内容の情報発信を行い、地域連携をより密なものにしていく。

・事業内容

①智頭駅前庭園の管理

- ・内容：作庭を11月、12月の2回実施した。
- ・対象：生活環境科住環境デザインコース生

②智頭病院の装飾

- ・内容：智頭病院のロビーの一角にプランター等を活用して室内装飾を年間4回実施した。
- ・対象：生活環境科住環境デザインコース生

【智頭町への提案事業 ～智頭町百人委員会～】

[森林科学科、生活環境科]

地域連携・貢献事業

智頭宿魅力アッププロジェクト

・事業のねらい

智頭の宿場町としての町並みの景観保存を目的として「Preserve 智頭宿」と協同で活動し、かつての景観をより魅力的にするための活動である。令和2年度で7年目を迎える。令和2年度は、秋に新築開館する智頭町立智頭図書館の館内を飾る格子の製作と藍染めのれんの制作を目指す。技術の習得、継承を目的としながら地域の方々との交流を行うことで、全人的な成長を図る。

・事業内容

①格子の製作

年度当初、生徒と智頭図書館および地域の専門家を交え、デザインについての検討、製作を行い年明けの1月に完成。地域住民や図書館利用者への「お披露目会」を1月15日に行った。

②藍染のれんの制作

- ①の格子と同様に事業を実施する。

4 総合所見 (成果・評価)

地域と連携した活動を取り入れる科目は増えており、地域連携に関わる教員も増えている。地域連携担当教員は、地域からの要望を聞いて活動を企画、地域で行われるイベント等への参加において窓口となるなど、新規の活動を始める上で重要な役を担っている。

「地域連携」に重点をおいた内容では、地域の多くの事業所や教育機関との連携、国際交流学习など、学校での授業や実習では体験できない専門的で幅広い知識と技術を学ぶことができた。また、棚田保全の取り組みでは、山間地域の現状や課題を認識するとともに、継続していくことの必要性を感じている。一方、現在の事業に関してその効果と重要性について検証する必要があるのも事実である。

※枚数任意